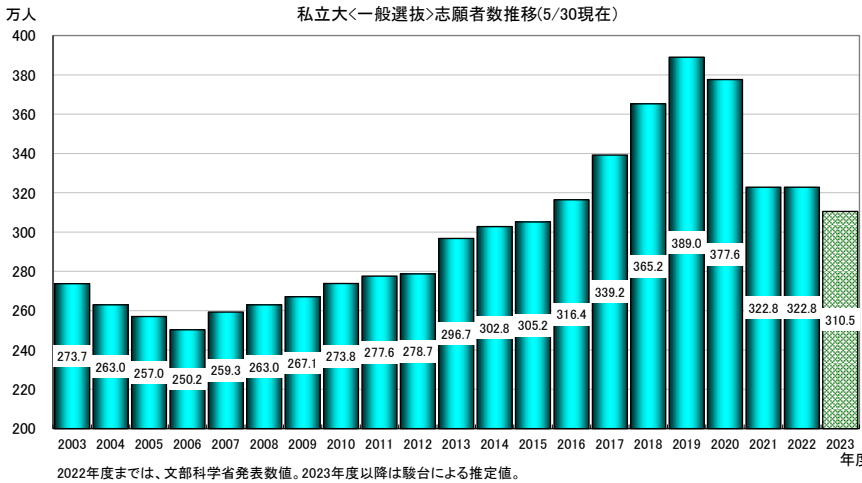


※本文中の()内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

◎志願状況全体概況

□延べ志願者数は前年度よりやや減少

〔私立大志願者数推移〕



駿台が集計した私立大519大学の一般選抜(学校推薦型選抜・総合型選抜等を除く)で志願者数が確定した募集単位を合計した延べ志願者数は、約307万人(96)で前年度より約4%のやや減少でした。この数値から推定される最終的な全私立大の延べ志願者数は、前年度の322.8万人と比較して、約4%減少の310万人余りになると予想されます。

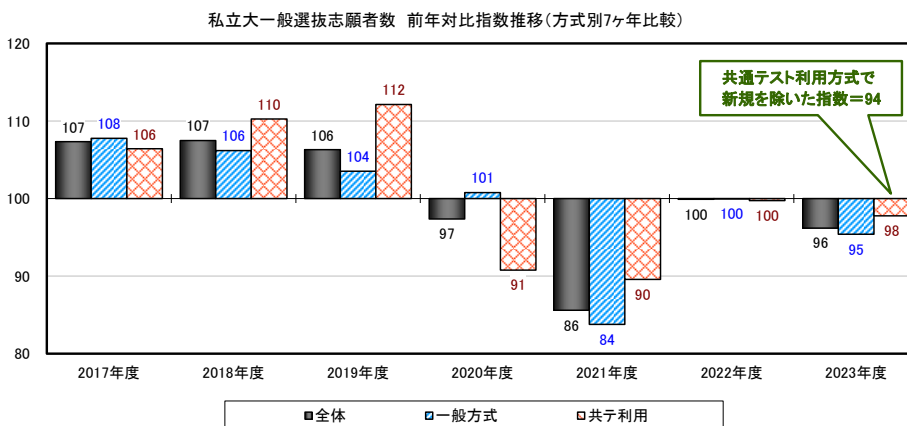
このような、一般選抜志願者数が「やや減少」である背景には、下記の4点が考えられます。

- ① 18歳人口の減少および浪人発生数減少に伴う受験人口全体の縮小。
- ② 中堅大学における年内入試(学校推薦型選抜、総合型選抜)へのシフト。
- ③ 私立大一般選抜全体の競争緩和による1人あたりの併願校数減少。
- ④ 地方の厳しい経済状況を反映した地元国公立大志向の高まり。

また、コロナ禍の影響は大学入試時点ではかなり緩和されたものの、2023年度入試を受験した高3生は高校入学時に学校一斉休校を経験しており、地方在住者は地元から離れた都市部の大学の情報を得る機会が制限されました。これが、積極的な志望への逆風となり、有力大学が都市部に位置する私立大志願者数減少に影響しています。

□一般方式は5%のやや減少、共通テスト利用方式は微減

〔私立大一般選抜 方式別志願者数 前年度対比指数〕



左のグラフは、私立大一般選抜の入試方式別の延べ志願者数の前年度対比指数の推移を表したものです。

2023年度では、一般方式(95)はやや減少、共通テスト利用方式(98)は微減となっています。ただし、共通テスト利用方式

は、グラフにはありませんが新規導入の募集単位を除くと(94)のやや減少となりました。共通テスト利用方式は、早稲田大・教育のC方式、D方式や上智大の共通テスト利用方式(3教科型)など、有力大学での新方式導入により前年度並の志願者数を維持しています。